

Ⅱ 全国プログラム委員会からのお知らせ（全国研究大会報告募集）

上藤 一郎（全国プログラム委員長）

－2023 年度（第 67 回）全国研究大会の企画セッションの設置と報告者の募集について－

2023 年度全国研究大会は、静岡大学を開催校（東北・関東支部担当）として以下の日程・場所において対面で実施されます。

日程：2023 年 9 月 7 日（木）・8 日（金）

会場：静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ

ニュースレター No.63・64 でセッションの企画案を募集し、提出された企画案をプログラム委員会において審議した結果、一般報告（自由論題）、6 つの企画セッションを設置することにしました。つきましては、研究大会で報告を希望される会員は下記の要領で申込みをお願いします。多くの会員からの応募を期待しております。なお、最終的なプログラムの確定に際しては、会場の都合等により企画セッションの若干の調整があり得ることをご承知おき下さい。また応募者数によっては追加のセッションを設置する場合があります。設置のめどが立ち次第、学会 Web サイト、メーリングリスト等によってお知らせします。

今後の状況により、実施方式の変更等が生じる場合がありますので、プログラム委員会からの広報や連絡にはご注意ください。

1. 報告申込要領

【報告申込にあたっての留意事項】

- ①原則として会員とします（複数で報告する場合にも全員会員が基本です）。非会員の報告については機関誌『統計学』投稿規程に準じることとします。
- ②有効期限付き滞在ビザで入国している外国人会員（もしくは共同報告者に予定される外国人非会員）で報告を希望する場合には、滞在ビザの有効期限にご注意ください。学会報告を理由に滞在許可の延長申請をしても、許可されないことがあります。在留期間に定めのある会員は、あらかじめ滞在期間の延長を申請し、その許可を得るなどの必要な措置をとってから、申し込みを行ってください。
- ③報告要旨原稿締切日（8 月 2 日）までに 2023 年度及び過年度の学会費が納付済みであることが必要です。

【募集締切】

2023 年 5 月 22 日（月）必着（期限厳守）

※当初の予定（5 月 8 日）より少し締切日を延長して

います。

【申込み方法】

本ニュースレター最終ページの全国研究大会報告申込みフォーム、または学会 Web サイトからダウンロードできる申し込みフォーム（WORD ファイル）に必要な事項を記入の上、プログラム委員長・上藤まで電子メールで申し込んでください。

なお、記入済みの大会報告申し込みフォームを添付ファイルで送付する際には、件名に必ず「大会報告申し込み」と明記するようお願いいたします。送付先アドレスは以下の通りです。

uwafuji.ichiro@shizuoka.ac.jp

【その他】

- ①報告の採否は 5 月 31 日（水）までに各報告希望者へ通知します。
- ②報告が決まった会員には 8 月 2 日（水）までに報告要旨集の原稿（A4 判 2 枚）を添付ファイルで提出していただきます。報告要旨のフォーマットやファイル形式等の詳細については報告採否通知の際にお知らせします。
- ③事情により電子メールでの報告申込を希望しない場合は、郵送等による報告申込を個別に対応しますのでプログラム委員長・上藤に相談ください。

2. 一般報告、企画セッションのテーマ・提案者・趣旨

2-1 一般報告（自由論題）

自由論題での一般研究報告を募集します。なお、関連性の強い報告がまとまれば、プログラム委員会の議を経て新たに企画セッションとして設置することもあります。

2-2 企画セッション

1) 社会科学としての統計学の現代的課題（仮）

提案者：本部事務局・プログラム委員会

本年は学会創立から 70 年を迎えるため、本会の統計学への貢献や独自性、その現代的意義を明らかにする機会として、創立以来の本会の歴史を批判的に検討する端緒となることを目的とする。また、この成果が引続き周年事業につながることを想定している。多くの参加がえられるよう柔軟で多様な開催形式を考えている。

2) 国民経済計算及び国際収支統計に関する諸問題

提案者：櫻本健（立教大学）

国民経済計算体系マニュアルと国際収支マニュアルは2025年に改訂される予定となっている。グローバル化、デジタル化などいくつかの重要な課題に混ざって過去の改訂でも取り上げられた課題も引き続き検討されている。マニュアルに盛り込む課題は概ね固まり、残された推計上の課題を実務に落とし込むことが求められている。

3) 日本の統計史を考える

提案者：小林良行（東北・関東支部）

本企画セッションは、わが国の統計学研究における歴史的観点の重要性の再認識を促すことを目的として設けるものである。本セッションでは、明治維新前後から現在までを基本的な時間的範囲として、諸外国とわが国の統計学上のかかわりを含め様々な角度からわが国の統計史を捉えることを視野に入れている。以降を基本的な時間的範囲としたものである。

4) 地域の諸課題と調査・統計分析

提案者：菊地進（東北・関東支部）

人口減少が急速に進む地方のみでなく、都市部においても高齢化の問題が深刻化してきており、防犯・防災、子育て、介護、地域医療、地域福祉、公共施設の維持、公共サービスのあり方など、地域の課題が山積みとなっている。これらの地域の諸課題は、行政サービスの改善のみで解決できるものではなく、地域の各層の協働・共創が強く求められている。

そのためには、地域の現状を掘り下げ共有認識が広まっていくことが必要である。コロナ禍の影響や資源不足による急速な価格上昇の中で、このことが一層重要になっている。そこで、地域において山積する諸課題との関わりで進められている調査・統計分析を報告していただき、地域の諸課題の検討を深めるセッションを設けることとしたい。

5) ジェンダー問題の統計分析（仮）

提案者：杉橋やよい（専修大学）

日本においてもダイバーシティやインクルージョンが社会的にも必要な概念として認識は広がっているものの、男女間の格差・差別、そして性的マイノリティへの差別はあらゆる分野において存在し、さらにコロナ禍においてより一層深刻になっている。こうした状況を統計的に分析しまた統計におけるジェンダー問題についても議論するために、セッションを設置したい。

6) 労働・生活・福祉問題と統計

提案者：水野谷武志（北海学園大学）

労働統計研究部会では、部会員が取り組んでいる最新の研究テーマについて、多様な報告者でセッションを構成す

ることが部会及び学会の活性化につながると考えた。そこで労働・生活・福祉問題に関連する分野で研究に取り組んでいる会員で構成したセッションを設置したい。

3. 今後の日程（予定）

5月 22日：報告申し込み締切

5月 31日：報告採否通知

7月 上旬：プログラム及び出欠葉書の郵送配布

8月 2日：『要旨集』原稿提出締切

9月 7～8日：全国研究大会

4. その他

大会開催について不明の点などあれば、各支部のプログラム委員にお尋ねください。

[北海道支部] 鈴木雄大

[東北・関東支部] 上藤一郎・櫻本健

[関西支部] 藤井輝明・村上雅俊

[九州支部] 高橋将宜